

いくつになっても 地域で自分らしい 暮らしができる社会へ

Our Mission

我が国は、2025年には、いわゆる「団塊の世代」の全ての方が75歳以上となり、認知症の方も約700万人に達すると推計されています。また、2040年に向けては、生産年齢人口が減少する一方、85歳以上の高齢者が急増し、介護ニーズがますます増大することが見込まれています。介護が必要な方やその家族を支え、いくつになっても住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができる社会を目指して、介護保険制度をはじめとする高齢者福祉・介護施策を、各地域で行われている地域づくりの取組と連携しながら推進しています。

部局の所掌分野

介護保険制度の運営

介護が必要な方に、それぞれのニーズに応じて、施設サービスや在宅サービスなど、多様な介護サービスを提供する公的保険制度を運営しています。

介護報酬の決定

介護サービスを提供する対価として事業者が受け取る介護報酬の「価格」を決め、質の高いサービスを安定的に提供するための体制づくりを進めています。

地域包括ケアシステムの推進

介護が必要となっても、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される地域づくりを進めています。

認知症施策の推進

認知症の方を含め、全ての方が相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会（共生社会）の実現に向け、総合的な認知症施策を推進しています。

いきいきと働くことができる 介護現場に向けて

高齢化に伴い、介護サービスの需要が更に高まる一方、生産年齢人口の急減が見込まれる中、介護人材の確保は喫緊の課題です。介護職員の処遇改善などの取組とあわせて、介護現場の生産性の向上を通じて職場環境の改善やサービスの質の向上を図ることが、介護人材の定着・確保においては重要です。

介護分野における生産性の向上に向けて、介護ロボットやICT等のテクノロジーの導入・活用等の支援や、各都道府県における相談窓口の設置のほか、技術開発に向けた支援を進めており、こうした取組は、政府が進めるデジタル行財政改革においても重点分野として位置付けられています。

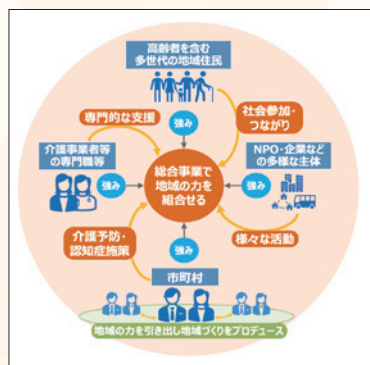


介護現場におけるテクノロジーの活用例
(各ベッドに設置した見守りセンサーにより、睡眠状況等がモニターに表示される)

高齢者の尊厳と自立した 日常生活を地域で支えていくために

高齢者の尊厳と自立した日常生活を地域で支えていくためには、市町村が中心となって、医療・介護専門職がより専門性を発揮しつつ、高齢者や多様な主体を含めた地域の力を組み合わせるといった視点に立ち、地域をデザインしていくこと（地域づくり）が必要です。

市町村での地域づくりの取組を推進するため、その手段



地域づくりのイメージ

の一つである介護予防・日常生活支援総合事業の基本的な考え方やポイントを示したハンドブック等の策定、同事業の実施方針を市町村が検討するに当たって参考となる運営・報酬モデルの提示、地域づくりに課題を抱える市町村への厚生労働省職員の派遣事業等を行っています。

支え合いながら共に生きる社会を目指して

認知症の方が尊厳と希望を持って暮らすことのできる社会である共生社会の実現を目的とし、2024年1月に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行されました。

共生社会の実現に向けて、「みんなで」「本人とともに」「本人もその家族等も自分らしくいられるよう」「地域でつながる」という基本的な考え方を共有しつつ、認知症の人もそうでない人も共に生きる社会を目指し、認知症施策を推進していきます。

具体的な施策として、認知症とともに希望を持って生きるという「新しい認知症観」や認知症基本法の理解促進、認知症の本人の姿と声を通じて「新しい認知症観」を伝えていくための取組を進めているほか、認知症施策に関する国際連携にも取り組んでいます。

地域づくり支援
ハンドブック



G7長崎保健大臣会合開催記念
認知症シンポジウム

Hot Topics

介護職員の処遇改善に向けて

介護職員の処遇改善に向けた累次の取組により、介護職員と全産業平均との賃金差は縮小してきましたが、昨今の他産業における高水準の賃上げ等を受け、介護分野からの人材流出が課題となっています。

人材確保に向けて、令和5年度補正予算及び令和6年度介護報酬改定において、介護職員の更なる賃上げを行うための措置を実施しました。

「ねんりんピック」の開催

全国健康福祉祭(ねんりんピック)は、年に一度の高齢者を中心としたスポーツと文化の祭典で、2023年度は愛媛県で開催されました。全国から50万人以上が参加し、スポーツ交流や文化交流などを通じて、参加者のいきいきとした姿や幅広い世代間の交流が随所で見られました。

元気あふれる社会づくりに向けて、ねんりんピックを契機に、高齢者をはじめとする幅広い世代に健康への関心を持ってもらえるような大会づくりに取り組んでいます。



2023年度えひめ大会の
マスコット「みきゃんトリオ」



総合開会式の様子(2023年度えひめ大会)